

2025.8.27

報道関係者 各位

< 配信枚数 3 枚 >

～ノーベル平和賞受賞者と若者が語る核廃絶の未来～
「ノーベル平和賞から核廃絶へ」シンポジウム開催のお知らせ

日時: 2025 年 9 月 29 日(月) 13 時 30 分～16 時

場所: 立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム

立命館大学(所在: 京都府京都市、学長: 仲谷善雄)が設立し運営する立命館大学国際平和ミュージアム(所在: 京都府京都市、館長: 君島東彦)は、毎日新聞社と共同で核兵器廃絶と平和構築の未来を考える「ノーベル平和賞から核廃絶へ」を 2025 年 9 月 29 日に立命館大学衣笠キャンパスで下記の通り、開催いたします。

本シンポジウムでは、2024 年ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会の代表理事である金本弘氏が基調講演を行います。被爆者の証言と核廃絶の歩みを語ることで、核兵器の非人道性と廃絶の必要性をあらためて問いかけます。

さらに、パネルセッションでは、登壇者の一人として、次世代の視点から、本学国際平和ミュージアム学生スタッフであり、核廃絶運動に取り組む学生団体「KNOW NUKES TOKYO」(東京)の共同代表を務める倉本芽美さん(国際関係学部 4 回生)が登壇し、学生による取り組みを紹介します。研究者や市民活動の実践者とともに、核廃絶に向けた展望を多角的に議論します。

本シンポジウムは、参加者一人ひとりが平和の意味を考え、核廃絶をどのように実現できるのかを共に模索する機会となることを目指しています。

【立命館大学国際平和ミュージアムについて】

1992 年、世界で初めての大学立の平和博物館として開館。立命館大学の「平和と民主主義」の教学理念を具体化する教育・研究機関として、また社会に開かれ、発信する社会開放施設として設立しました。2005 年に第 1 期展示リニューアルを行い、国際平和メディア資料室を新設。2023 年に第 2 期展示リニューアルを行い、地階と 2 階に分かれていた常設展示を地階に統合。施設設備についてもユニバーサルデザインに配慮したものに改装し、2 階に主体的な学習や資料の閲覧が可能なピースコモンズを設置しています。

< 立命館大学国際平和ミュージアム HP: <https://rwp-museum.jp/> >

記

日時 : 2025 年 9 月 29 日(月)13 時 30 分～16 時(開場 13 時)

会場 : 立命館大学衣笠キャンパス 創思館カンファレンスルーム
(京都府京都市北区等持院北町 56-1)

プログラム : <基調講演>

・金本 弘 氏(日本原水爆被害者団体協議会 代表理事)

<パネルセッション>

・倉本 芽美 氏(立命館大学国際関係学部4回生／国際平和ミュージアム学生スタッフ)

・河合 公明 氏(長崎大学核兵器廃絶研究センター教授・副センター長)

・高橋 悠太 氏(一般社団法人かたわら代表理事)

・司会:君島 東彦 氏(立命館大学国際関係学部特命教授／国際平和ミュージアム館長)

対象 : 学生・一般市民(定員130名／事前申込 ※以下QRコードより申込)



申込用QRコード

参加費 : 無料

主催 : 立命館大学国際平和ミュージアム、毎日新聞社

以上

本リリースの配布先: 京都大学記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、 文部科学記者会

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学 広報課 担当:池田

TEL.075-813-8300 MAIL.r-koho@st.ritsumeai.ac.jp

毎日新聞社・立命館大学国際平和ミュージアム共催企画

基調講演



日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）
代表理事 **金本 弘 氏**

金本弘氏（1944年広島生まれ）は生後9か月で被爆。白血球、赤血球が少なく病弱体質と言われ育った。小中高大を広島で過ごし、名古屋市で高校教諭を務めた。70歳で愛知県原水爆被災者の会に入会し、現在は理事長。2015年に日本被団協東海北陸ブロック代表理事に選出され、2024年にはノーベル平和賞授賞式に参加。2025年、国連NPT再検討会議の準備委員会のNGOセッションで核廃絶を訴えた。

パネルセッション

河合 公明 氏

長崎大学核兵器廃絶研究センター教授・副センター長

高橋 悠太 氏

一般社団法人かたわら 代表理事

倉本 芽美 氏

（立命館大学国際関係学部4回生）

立命館大学国際平和ミュージアム学生スタッフ

（司会）

君島 東彦 氏

立命館大学国際関係学部特命教授・国際平和ミュージアム館長

ノルウェー・ノーベル賞委員会が日本被団協にノーベル平和賞を授与すると発表してから、まもなく1年が経過します。今年、国連創設80周年、そして核時代の幕開けから80年という節目の年でもあります。このような歴史的な背景のなかで日本被団協のノーベル平和賞受賞をどのように受け止めるべきでしょうか。そして、私たちは被爆者とともに、どのような道筋で核廃絶を目指すのか、考えたいと思います。

被爆者とともに私たちは何ができるか

ノーベル平和賞 から核廃絶へ

定員

130 名様

参加無料
要申込

2025 **9.29** 月

[時間] **13:30 - 16:00**
(開場13:00)

[会場] 立命館大学衣笠キャンパス
創思館カンファレンスルーム
(京都市北区等持院北町56-1)



参加申込はこちらから
(定員になり次第締切)



立命館大学国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace, Ritsumeikan University



毎日新聞



【お問合せ】

立命館大学国際平和ミュージアム
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL 075-465-8151 / FAX 075-465-7899